

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100428		
法人名	四国産業株式会社		
事業所名	リーラの家 さくら (空ユニット)		
所在地	香川県高松市福岡町4丁目12-18		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 15 日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790100428-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ブランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 5 年 1 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの感染予防のため、入居者の健康管理は注意深く観察している。面会や外出でも以前と違った対応になっているが、「いつまでもあなたらしく生きる楽しさを」という施設理念に基づいて、入居者にとって居心地の良い場所を提供すべく、コロナ渦の中職員が知恵を出し合い工夫をしている。環境を整える事で、認知症の周辺症状が良くなり、「元気になった」と家族も本人も笑顔が増えることを目指している。そして、その先にある「看取り」を視野に入れて、ひとつひとつの関わりを丁寧に、1日1日の時の流れを大切に、入居者・職員共々に生活を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一般住宅と見間違えるほど地域に浸透しており、採光も良く、庭先にはイチジクやイチゴ、ハーブ、オリーブ等の草木が植えられ、四季の移ろいを感じることが出来る。また、近くには大型ショッピングセンターや公園があり、買い物や憩いの場として利用したり楽しんだりできる環境がある。優れている点として上げられるのは、次の3点である。まず、給食委託と手作り料理の日を織り交ぜながら、利用者本位のバランスの取れた季節感あふれるメニューを提供していること。二つ目に、ミキサー食の利用者も出来るだけ自分の力で食べてもらう、温かい物は温かい状態で提供するなど、残存能力を活かしながら美味しく食事ができる様に支援していること。三つ目に、働きやすい環境作りの一環として、事業所内部に事業所内保育が設置されており、子供の声が利用者の笑顔に繋がっていることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビングの目に入りやすい所に掲示し、常に意識できるように、また、困った時も、行動の軸としている。	玄関及び各ユニットのリビングに理念を掲示し、職員に周知している。また、毎月一回、ミーティングの時に見直ししている。新人に対しては入社時に説明し、理念にそぐわない時は個別対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ当番が輪番制で回ってくるので、当番月には未回収のゴミがあれば回収している。	町内のゴミ掃除や地域の防災訓練、近隣教会のイベントなど、積極的に参加している。また、葬儀屋さんがフラワーアレンジメントのボランティアで来たり、市主催の秋祭りで子供会の獅子舞が来たりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と散歩や玄関周辺を清掃している時に、地域の方々から声をかけていただく事がある。入居条件や費用をたずねられたりするので、お知らせしている。敷地の一部をゴミ収集日にゴミステーションとして、地域に提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年1月までは自治会長・民生委員・市介護保険課職員・入居者・家族と施設職員が参加して、2ヶ月に一度開催していた。3月以降は、構成員に予め電話にてお話や連絡事項を聞き取り、会議にて報告している。	2ヶ月に一回、書面会議を開き、運営推進会議のメンバー全員に議事録を送付している。一日でも早く運営推進会議のメンバーに会って、意見等を聞き取りたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の開催前には、市介護保険課担当職員に対して連絡事項などをうかがい、後日会議内容を書面にて報告している。介護・制度・事故など介護全般でわからない事や困った時には市介護保険課に相談させてもらっている。	管理者とケアマネージャーが窓口となり、空き部屋情報を地域包括に伝えたり、分からない事や知りたい事があれば連絡したり情報交換しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を年に二回開催している。玄関の施錠は、近くに交通量の多い幹線がある事から、安全上実施している。	運営推進会議の後、身体拘束委員会を開いている。また、正職員に研修内容を振り分け、身体拘束の担当職員が内容等を考えて、内部研修(年2回)の中で発表している。ネットからの情報引用は禁止している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施する中で、認知症の理解と共に職員相互に話し合いをする事で、イライラした時の回避方法などを相談している。申し送り時に対応方法の情報交換、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とされている家族には、説明や相談場所を案内している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改訂に関しては十分な時間を設け、なるべく職員2名で対応して、不明な点のないよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員ボードを設置し、家族に職員の名前を覚えていただけるようにしている。ご家族の意見箱を設置している。	利用者は何気ない会話から、家族は電話で聞き取っている。また、玄関に意見箱も設置している。出た意見等は、昇降台の購入や食事メニューなどに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は少なくとも月に一度、一人一人と短時間であっても会うようにしている。管理者も他職員と同様に同じ業務を行い悩みや問題を共有しやすいように努めている。	代表者や施設長とは何でもフランクに話せる関係である。毎月行うミーティングや日々の申し送りの中で意見等を聞き取っている。利用者のケア対応に関する意見が多く、利用者の状態を観たり、実践しながら対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月給料袋は代表者が手渡しして、その際に職員の意見などを聴く機会を持っている。施設長も夜勤に入り、職員からの話を個別に聞いて対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修制度の案内を施設に貼り通達している。外部研修の費用補助と(出来る限りの)シフト調整を行い職員が受講しやすい環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染予防のため、以前は実施していた「リーラの家やしま」との交流も休止している。姉妹施設に空き情報の連絡を適宜行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談にいられた時、困っていたり不安に思っている事を聞き取り、サービスを開始する際には、十分に状況を把握し職員に周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約前に、更に細かい内容について家族と本人、家族と施設側、本人と職員が深く関わりが持てるように情報を収集している。ご希望に施設が応える事が可能かどうか特に注意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態やご希望、期待と施設の方針、共同生活が営めるかどうかを検討し、当施設を必ずしも利用していただくというのではなく、適切なアドバイスを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場を意識し、無理や負担にならないよう注意して、入居者・職員共々に「一緒に生活しているパートナー」としての意識付けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会が激減したので病院受診付き添いが貴重な機会となっている。可能な方はベランダから話されたり、時々電話でお話していただけるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染予防に伴い、以前のように自宅へ帰ったり、家族と外出する機会がなくなっているが上記のような取り組みを行っている。写真や贈り物、馴染みの物を活用し関係が薄れないように努めている。	コロナ禍のため、馴染みのクリニックに通院する利用者以外は、家族と外出・外食することは中止している。馴染みの関係が途切れない様、年賀状を送ってくれた家族等に電話でありがとうを伝えたり、誕生日や敬老の日に家族から花や人形が届くと写真を撮って送ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルメイトとして、馴染みの関係を持てるように座席を工夫している。レクリエーション活動を通して、互いに関わりを持つ機会を設定している。性格や相性に注意し、ご本人の気持ちを第一に尊重し無理のないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば対応したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような生活を希望されているか確認している。意思疎通の困難な方には、生活歴や生活から読み解く努力をしている。できる限り希望の生活が送れるように環境を整えている。	利用者の暮らしの希望等は、日々の活動の中で把握し、毎月のミーティングで共有している。把握が難しい時は、生活歴を見直したり、家族に聞いたり、事業所内での日常を振り返ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任ケアマネからの情報収集や本人・家族に聞いている。また、介護を通して把握したことは記録し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察を細かく行い、認知症特有の日内変動に個別対応している。また、言動の背景を考察することで、本人の精神状態がどのように変動しているか理解できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを定期的に行い、状態の把握を行うようにしている。本人・家族・職員・医療関係者等の意見も聞き、介護計画に反映するようにしている。	各ユニットのケアマネージャーが3ヶ月に一回、モニタリングを行っており、利用者に変化があればその都度、見直している。水分摂取や薬の変更など、主治医から指示やアドバイスがあれば、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のちょっとした変化や職員の気づきを細かく記録するようにしている。また、家族が読んでもわかりやすいように、できるだけ専門用語を使用せず、ありのままを記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一つの支援方法だけでなく、多様な側面からのアプローチを大切に、ささいな事でも職員が発言しやすいように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで利用していた資源や類似したものを確認し、情報収集した上で、本人らしく生活できるようにサポートしている。職員だけでは限界があるので、家族にも協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。緊急時や家族の送迎が困難な時には、受診介助を行い訪問診療利用の支援も行っている。	馴染みのクリニックへの受診支援は家族が行っており、必要な情報は紙面で渡している。ほとんどの利用者が協力医(＝かかりつけ医)であり、2週間に1回訪問している。歯科は必要時に連絡し、往診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護中に気がついた事を記録し、ご家族や医療機関と情報共有や相談をし、入居者が安心して穏やかに生活できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、薬や入院必要物品の搬入等の支援を行っている。検査や病名などの情報の共有化を図り、退院時に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化・終末医療及び看取りに関する同意書」を作成して相互交換している。入居者の状況が変化した場合には、小さな事でも家族に報告・相談し、今後予定される事や支援できる事を説明している。その上で、これからの方針を一緒に立てている。	入居時、事業所で出来ること・出来ないことを説明し、家族と同意書を交わしている。状態に変化があればその都度、管理者又はケアマネージャーが家族に連絡し、今後の方針等について話し合っている。また、年1回、内部研修を行っており、協力医療機関と連携しながら、職員一丸となって看取り介護に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を実施し看護師からの指導を受けている。緊急時の際の緊急連絡網・対応マニュアルを作成し発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成16年に地域一帯が浸水しているので、高潮警報が発令された場合には、訓練も併せて、記録や薬を2階に移動させている。避難訓練・防火訓練は1年に2回実施している。	年2回、避難・防火訓練を行っており、可能な限り利用者も参加している。また、内一回は消防署の立ち合いもある。コロナ禍のため、地域住民への参加呼びかけ、地域の防災訓練は中止している。また、事業所の2階に食料品や飲み物、担架、救急セット等を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	清掃等で居室に職員が入る場合は、リビングにいる入居者にはあらかじめ了解を得て入室している。在室時にはノックをし、声かけをしている。排泄介助は、居室トイレを使用している。子供扱いされていると誤解のないよう、発言には職員が気付いた時点で、お互い注意している。	さん付で声かけする、赤ちゃん言葉を使わないなど、利用者の尊厳や誇りに配慮した言葉かけをしている。また、利用者が不穏になった時の言葉かけには、十分な注意を払っている。年1回、接遇マナーに関する内部研修を行い、全職員で実践力を身に付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人が、理解できる範囲での職員からの発言を心掛けている。言葉だけでなく、穏やかな雰囲気作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、ご本人の体調や気分、今までの生活習慣に配慮して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好みのものや、お気に入りの衣類を持ってきていただいている。清潔かつ、本人が着て落ち着く服を選択してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で、洗米や食器洗い、盛り付けをお願いしている。	しっぽくうどん・山菜うどん等の季節メニューや素麺・バラ寿司・鶏料理等の行事食を取り入れながら、楽しく食事が出来るよう工夫すると共に、ミキサー食の利用者にも出来るだけ自分で食べてもらえるように支援している。コロナ禍前は、イベントの一環として地域の人や家族を呼んで打ち込みうどんを食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嚥下状態や疾病に配慮し、食材は、季節のものや地元のものを購入している。飲み物も、好みに合わせたものを提供し、できるだけ楽しく水分補給が実施できるように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きのできる方は、声かけや準備を行っている。拒否される場合も、極力負担にならないように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	心身の両面からの効果を考えて、トイレでの排泄を目指している。排泄記録を細かく行い、排泄パターンを把握して声かけ・介助を行っている。	トイレに行きたい時はベルを鳴らしてもらったり、個々の排泄パターンに合わせて声かけして、居室内のトイレに誘導している。寝たきりの利用者は、2～3時間おきにオムツ・パット交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や施設看護師に状況を報告し、必要に応じ内服薬の調整を行っている。毎日午前中に習慣体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	普通浴にシャワーチェアで入浴できるように設備がなされており、身体状況に応じている。日内変動に対応して、気分の良い時を見計らって声かけしている。清潔の状況と入浴回数に基づき適宜、入浴の順番を決めている。	2～3日に一回の入浴を基本としている。楽しく入浴できるよう、入浴剤を使ったり、ゆず湯を提供したりしている。また、利用者に合わせて職員を交えることもある。入浴するまで不穏な利用者も、入浴したあと気持ち良かったと言ってくれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	スムーズに眠りにつける時間を大まかに把握し、入床介助を行っている。音や温度・照明に注意している。夜間覚醒された方や不安を抱かれた方の為には、リビングで休んで頂けるようにソファベッドを用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は個人ファイルを見れば、わかるようにしている。内服薬の種類や量に変更があった場合には、看護師に報告し申し送り時等で職員に伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある事、出来る事を把握し、レクリエーションに取り入れている。得意分野を役割として行ってもらい、達成感や満足感、生活に張りを感じて頂けたらと考えている。(縫物などの)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近所を散歩している。季節を感じていただける場所やその時期の行事的な外出。(初詣、花見、菊花展など)	コロナ禍のため、敷地内から出ることは中止している。以前は、初詣に行ったり、近くの桜や梅を観に行ったりしていた。現在はベランダやデッキに出て、プランターに水やりしたり、新鮮な空気を吸ったりして過ごしている。	ドライブなど、空気に触れる機会の創出に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、入居者に一部をお持ちいただくこともある。入居者の安心・納得に繋がっているがその後、様子観察している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に病後に会話をして頂くとお互いに安心して頂ける場合が多い。関係が薄れず継続できるようにも効果は大きいと考えられるので、積極的に支援している。手紙に馴染みのある方は適宜支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い、清潔で居心地の良い空間の提供を心掛けている。不快に感じる物や危険な物、混乱に繋がるものは、片付けてゆったりと過ごして頂けるように配慮している。	白と木目を基調とした共有ホールには、行事で撮った写真や利用者と一緒に作成した飾りなどが掲示され、室内においても季節が感じられる様になっている。また、アンティークの品々が随所にある、落ち着きと清潔感に満ちている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においてもご自分の席がほぼ決まっています、その場所で過ごされることが多い。日内変動にあわせた対応を心掛け、必要なら居室で休まれたり、気の合った方々と一緒に過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具一式は施設に予め設置しているものもあるが、持ち込みも可能。それまで使っていたものや馴染みのあるもの、お好みの写真や絵画等を自宅から持ってきてもらい、その方らしい空間が維持できるようにしている。(仏壇、テレビ、ラジオも可)	馴染みの物や家で使用していた物を持ち込むことは可能であり、趣味で撮った季節の写真を掲示したり、利用者の状態に合わせてベッドの配置やトイレとの距離に配慮しながら、安全で落ち着いた生活が出来るように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に貼り紙を用いたり、声かけにて最小限の支援で生活が送れるようにしている。わかる事を増やす努力をし、出来る事が増える、維持できるように心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100428		
法人名	四国産業株式会社		
事業所名	リーラの家 さくら (海ユニット)		
所在地	香川県高松市福岡町4丁目12-18		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 15 日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790100428-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ブランチピース
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12
訪問調査日	令和 5 年 1 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの感染予防のため、入居者の健康管理は注意深く観察している。面会や外出でも以前と違った対応になっているが、「いつまでもあなたらしく生きる楽しさを」という施設理念に基づいて、入居者にとって居心地の良い場所を提供すべく、コロナ渦の中職員が知恵を出し合い工夫をしている。環境を整える事で、認知症の周辺症状が良くなり、「元気になった」と家族も本人も笑顔が増えることを目指している。そして、その先にある「看取り」を視野に入れて、ひとつひとつの関わりを丁寧に、1日1日の時の流れを大切に、入居者・職員共々に生活を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一般住宅と見間違えるほど地域に浸透しており、採光も良く、庭先にはイチジクやイチゴ、ハーブ、オリーブ等の草木が植えられ、四季の移ろいを感じることが出来る。また、近くには大型ショッピングセンターや公園があり、買い物や憩いの場として利用したり楽しんだりできる環境がある。優れている点として上げられるのは、次の3点である。まず、給食委託と手作り料理の日を織り交ぜながら、利用者本位のバランスの取れた季節感あふれるメニューを提供していること。二つ目に、ミキサー食の利用者も出来るだけ自分の力で食べてもらう、温かい物は温かい状態で提供するなど、残存能力を活かしながら美味しく食事ができる様に支援していること。三つ目に、働きやすい環境作りの一環として、事業所内部に事業所内保育が設置されており、子供の声が利用者の笑顔に繋がっていることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビングの目に入りやすい所に掲示し、常に意識できるように、また、困った時も、行動の軸としている。	玄関及び各ユニットのリビングに理念を掲示し、職員に周知している。また、毎月一回、ミーティングの時に見直ししている。新人に対しては入社時に説明し、理念にそぐわない時は個別対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ当番が輪番制で回ってくるので、当番月には未回収のゴミがあれば回収している。	町内のゴミ掃除や地域の防災訓練、近隣教会のイベントなど、積極的に参加している。また、葬儀屋さんがフラワーアレンジメントのボランティアで来たり、市主催の秋祭りで子供会の獅子舞が来たりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と散歩や玄関周辺を清掃している時に、地域の方々から声をかけていただく事がある。入居条件や費用をたずねられたりするので、お知らせしている。敷地の一部をゴミ収集日にゴミステーションとして、地域に提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年1月までは自治会長・民生委員・市介護保険課職員・入居者・家族と施設職員が参加して、2ヶ月に一度開催していた。3月以降は、構成員に予め電話にてお話や連絡事項を聞き取り、会議にて報告している。	2ヶ月に一回、書面会議を開き、運営推進会議のメンバー全員に議事録を送付している。一日でも早く運営推進会議のメンバーに会って、意見等を聞き取りたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の開催前には、市介護保険課担当職員に対して連絡事項などをうかがい、後日会議内容を書面にて報告している。介護・制度・事故など介護全般でわからない事や困った時には市介護保険課に相談させてもらっている。	管理者とケアマネージャーが窓口となり、空き部屋情報を地域包括に伝えたり、分からない事や知りたい事があれば連絡したり情報交換しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を年に二回開催している。玄関の施錠は、近くに交通量の多い幹線がある事から、安全上実施している。	運営推進会議の後、身体拘束委員会を開いている。また、正職員に研修内容を振り分け、身体拘束の担当職員が内容等を考えて、内部研修(年2回)の中で発表している。ネットからの情報引用は禁止している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施する中で、認知症の理解と共に職員相互に話し合いをする事で、イライラした時の回避方法などを相談している。申し送り時に対応方法の情報交換、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とされている家族には、説明や相談場所を案内している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改訂に関しては十分な時間を設け、なるべく職員2名で対応して、不明な点のないよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員ボードを設置し、家族に職員の名前を覚えていただけるようにしている。ご家族の意見箱を設置している。	利用者は何気ない会話から、家族は電話で聞き取っている。また、玄関に意見箱も設置している。出た意見等は、昇降台の購入や食事メニューなどに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は少なくとも月に一度、一人一人と短時間であっても会うようにしている。管理者も他職員と同様に同じ業務を行い悩みや問題を共有しやすいように努めている。	代表者や施設長とは何でもフランクに話せる関係である。毎月行うミーティングや日々の申し送りの中で意見等を聞き取っている。利用者のケア対応に関する意見が多く、利用者の状態を観たり、実践しながら対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月給料袋は代表者が手渡しして、その際に職員の意見などを聴く機会を持っている。施設長も夜勤に入り、職員からの話を個別に聞いて対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修制度の案内を施設に貼り通達している。外部研修の費用補助と(出来る限りの)シフト調整を行い職員が受講しやすい環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染予防のため、以前は実施していた「リーラの家やしま」との交流も休止している。姉妹施設に空き情報の連絡を適宜行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談にいられた時、困っていたり不安に思っている事を聞き取り、サービスを開始する際には、十分に状況を把握し職員に周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約前に、更に細かい内容について家族と本人、家族と施設側、本人と職員が深く関わりが持てるように情報を収集している。ご希望に施設が応える事が可能かどうか特に注意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態やご希望、期待と施設の方針、共同生活が営めるかどうかを検討し、当施設を必ずしも利用していただくというのではなく、適切なアドバイスを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場を意識し、無理や負担にならないよう注意して、入居者・職員共々に「一緒に生活しているパートナー」としての意識付けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会が激減したので病院受診付き添いが貴重な機会となっている。可能な方はベランダから話されたり、時々電話でお話していただけるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染予防に伴い、以前のように自宅へ帰ったり、家族と外出する機会がなくなっているが上記のような取り組みを行っている。写真や贈り物、馴染みの物を活用し関係が薄れないように努めている。	コロナ禍のため、馴染みのクリニックに通院する利用者以外は、家族と外出・外食することは中止している。馴染みの関係が途切れない様、年賀状を送ってくれた家族等に電話でありがとうを伝えたり、誕生日や敬老の日に家族から花や人形が届くと写真を撮って送ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルメイトとして、馴染みの関係を持てるように座席を工夫している。レクリエーション活動を通して、互いに関わりを持つ機会を設定している。性格や相性に注意し、ご本人の気持ちを第一に尊重し無理のないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば対応したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような生活を希望されているか確認している。意思疎通の困難な方には、生活歴や生活から読み解く努力をしている。できる限り希望の生活が送れるように環境を整えている。	利用者の暮らしの希望等は、日々の活動の中で把握し、毎月のミーティングで共有している。把握が難しい時は、生活歴を見直したり、家族に聞いたり、事業所内での日常を振り返ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任ケアマネからの情報収集や本人・家族に聞いている。また、介護を通して把握したことは記録し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察を細かく行い、認知症特有の日内変動に個別対応している。また、言動の背景を考察することで、本人の精神状態がどのように変動しているか理解できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを定期的に行い、状態の把握を行うようにしている。本人・家族・職員・医療関係者等の意見も聞き、介護計画に反映するようにしている。	各ユニットのケアマネージャーが3ヶ月に一回、モニタリングを行っており、利用者に変化があればその都度、見直ししている。水分摂取や薬の変更など、主治医から指示やアドバイスがあれば、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のちょっとした変化や職員の気づきを細かく記録するようにしている。また、家族が読んでもわかりやすいように、できるだけ専門用語を使用せず、ありのままを記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一つの支援方法だけでなく、多様な側面からのアプローチを大切に、ささいな事でも職員が発言しやすいように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで利用していた資源や類似したものを確認し、情報収集した上で、本人らしく生活できるようにサポートしている。職員だけでは限界があるので、家族にも協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。緊急時や家族の送迎が困難な時には、受診介助を行い訪問診療利用の支援も行っている。	馴染みのクリニックへの受診支援は家族が行っており、必要な情報は紙面で渡している。ほとんどの利用者が協力医(=かかりつけ医)であり、2週間に1回訪問している。歯科は必要時に連絡し、往診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護中に気がついた事を記録し、ご家族や医療機関と情報共有や相談をし、入居者が安心して穏やかに生活できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、薬や入院必要物品の搬入等の支援を行っている。検査や病名などの情報の共有化を図り、退院時に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化・終末医療及び看取りに関する同意書」を作成して相互交換している。入居者の状況が変化した場合には、小さな事でも家族に報告・相談し、今後予定される事や支援できる事を説明している。その上で、これからの方針を一緒に立てている。	入居時、事業所で出来ること・出来ないことを説明し、家族と同意書を交わしている。状態に変化があればその都度、管理者又はケアマネージャーが家族に連絡し、今後の方針等について話し合っている。また、年1回、内部研修を行っており、協力医療機関と連携しながら、職員一丸となって看取り介護に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を実施し看護師からの指導を受けている。緊急時の際の緊急連絡網・対応マニュアルを作成し発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成16年に地域一帯が浸水しているので、高潮警報が発令された場合には、訓練も併せて、記録や薬を2階に移動させている。避難訓練・防火訓練は1年に2回実施している。	年2回、避難・防火訓練を行っており、可能な限り利用者も参加している。また、内一回は消防署の立ち合いもある。コロナ禍のため、地域住民への参加呼びかけ、地域の防災訓練は中止している。また、事業所の2階に食料品や飲み物、担架、救急セット等を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	清掃等で居室に職員が入る場合は、リビングにいる入居者にはあらかじめ了解を得て入室している。在室時にはノックをし、声かけをしている。排泄介助は、居室トイレを使用している。子供扱いされていると誤解のないよう、発言には職員が気付いた時点で、お互い注意している。	さん付で声かけする、赤ちゃん言葉を使わないなど、利用者の尊厳や誇りに配慮した言葉かけをしている。また、利用者が不穏になった時の言葉かけには、十分な注意を払っている。年1回、接遇マナーに関する内部研修を行い、全職員で実践力を身に付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人が、理解できる範囲での職員からの発言を心掛けている。言葉だけでなく、穏やかな雰囲気作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、ご本人の体調や気分、今までの生活習慣に配慮して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好みのものや、お気に入りの衣類を持ってきていただいている。清潔かつ、本人が着て落ち着く服を選択してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で、洗米や食器洗い、盛り付けをお願いしている。	しっぽくうどん・山菜うどん等の季節メニューや素麺・バラ寿司・鶏料理等の行事食を取り入れながら、楽しく食事が出来るよう工夫すると共に、ミキサー食の利用者にも出来るだけ自分で食べてもらえるように支援している。コロナ禍前は、イベントの一環として地域の人や家族を呼んで打ち込みうどんを食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嚥下状態や疾病に配慮し、食材は、季節のものや地元のものを購入している。飲み物も、好みに合わせたものを提供し、できるだけ楽しく水分補給が実施できるように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きのできる方は、声かけや準備を行っている。拒否される場合も、極力負担にならないように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	心身の両面からの効果を考えて、トイレでの排泄を目指している。排泄記録を細かく行い、排泄パターンを把握して声かけ・介助を行っている。	トイレに行きたい時はベルを鳴らしてもらったり、個々の排泄パターンに合わせて声かけして、居室内のトイレに誘導している。寝たきりの利用者は、2～3時間おきにオムツ・パット交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や施設看護師に状況を報告し、必要に応じ内服薬の調整を行っている。毎日午前中に習慣体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	普通浴にシャワーチェアで入浴できるように設備がなされており、身体状況に応じている。日内変動に対応して、気分の良い時を見計らって声かけている。清潔の状況と入浴回数に基づき適宜、入浴の順番を決めている。	2～3日に一回の入浴を基本としている。楽しく入浴できるよう、入浴剤を使ったり、ゆず湯を提供したりしている。また、利用者に合わせて職員を交えることもある。入浴するまで不穏な利用者も、入浴したあと気持ち良かったと言ってくれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	スムーズに眠りにつける時間を大まかに把握し、入床介助を行っている。音や温度・照明に注意している。夜間覚醒された方や不安を抱かれた方の為には、リビングで休んで頂けるようにソファベッドを用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は個人ファイルを見れば、わかるようにしている。内服薬の種類や量に変更があった場合には、看護師に報告し申し送り時等で職員に伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある事、出来る事を把握し、レクリエーションに取り入れている。得意分野を役割として行ってもらい、達成感や満足感、生活に張りを感じて頂けたらと考えている。(縫物などの)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近所を散歩している。季節を感じていただける場所やその時期の行事的な外出。(初詣、花見、菊花展など)	コロナ禍のため、敷地内から出ることは中止している。以前は、初詣に行ったり、近くの桜や梅を観に行ったりしていた。現在はベランダやデッキに出て、プランターに水やりしたり、新鮮な空気を吸ったりして過ごしている。	ドライブなど、空気に触れる機会の創出に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、入居者に一部をお持ちいただくこともある。入居者の安心・納得に繋がっているがその後、様子観察している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に病後に会話をして頂くとお互いに安心して頂ける場合が多い。関係が薄れず継続できるようにも効果は大きいと考えられるので、積極的に支援している。手紙に馴染みのある方は適宜支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い、清潔で居心地の良い空間の提供を心掛けている。不快に感じる物や危険な物、混乱に繋がるものは、片付けてゆったりと過ごして頂けるように配慮している。	白と木目を基調とした共有ホールには、行事で撮った写真や利用者と一緒に作成した飾りなどが掲示され、室内においても季節が感じられる様になっている。また、アンティークの品々が随所があり、落ち着きと清潔感に満ちている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においてもご自分の席がほぼ決まっています、その場所で過ごされることが多い。日内変動にあわせた対応を心掛け、必要なら居室で休まれたり、気の合った方々と一緒に過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具一式は施設に予め設置しているものもあるが、持ち込みも可能。それまで使っていたものや馴染みのあるもの、お好みの写真や絵画等を自宅から持ってきてもらい、その方らしい空間が維持できるようにしている。(仏壇、テレビ、ラジオも可)	馴染みの物や家で使用していた物を持ち込むことは可能であり、趣味で撮った季節の写真を掲示したり、利用者の状態に合わせてベッドの配置やトイレとの距離に配慮しながら、安全で落ち着いた生活が出来るように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に貼り紙を用いたり、声かけにて最小限の支援で生活が送れるようにしている。わかる事を増やす努力をし、出来る事が増える、維持できるように心掛けている。		